群馬県立大泉高等学校　学校評価一覧表①（令和３年度版）

（様式１）

羅針盤			方策	第１回 点検・評価			第２回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
Ⅰ　特色ある学校づくりに努めていますか。	1　特色ある教育活動を行っていますか。	○地域の特長や課題を理解し、多角的なものの見方や考え方を身に付ける学習に積極的に取り組む生徒の割合が80%以上である。 ○「課題研究」「総合的な探究の時間」に主体的に取り組む生徒の割合が80%以上である。	○社会人講師の招聘やフィールドワーク等の体験的学習、グループワークなどの協働的な学びを積極的に実施する。 ○年度当初や学習の節目を捉え、学習目標を再確認し、学習支援の充実を図る。	B	B	○教職員・生徒調査とも80%以上が地域の特長や課題を理解する学習、「課題研究」や「総合的な探究の時間」に80%以上が好意的な数値を示しており、引き続き、体験的学習や協働的な学びが充実するよう、学習支援の充実と授業改善に取り組みたい。	A	A	○地域の特長や課題を理解する学習、「課題研究」「総合的な探究の時間」に対する評価は良好な数値を示している。次年度は観点別評価の導入初年度にあたることを鑑み、授業のねらい等の可視化と、生徒の学習活動の見取りについて職員研修を通じ、改善を図りたい。
		○本校の教育課程や授業に80%以上の生徒が学びがいを感じ、学習活動に取り組んでいる。 ○卒業後も成長し続けるための基礎・基本を身に付ける指導に70%以上の生徒が満足している。	○学習活動の「見通し」を適宜明示することで、学習上のつまづきを把握し、支援する。 ○定期考査や小テスト等による課題の把握や、学習支援ソフトの活用による定着を図る。	B	B	○教職員・生徒調査とも、学習活動の「見通し」に関する指導や、教材・教具の多様化、グループワーク等について80%以上が好意的な数値を示しており、今後も授業改善を進めたい。	B	A	○次年度入学生から新教育課程が実施されることに鑑み、カリキュラムマネジメントの立場から生徒の学習上のつまづきに適切に対応できるよう、職員の情報共有に努める。
Ⅱ　生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2　生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	○科目選択や習熟度による少人数授業、実習やグループ学習に80%以上の生徒が満足している。 ○80%以上の生徒が学習ルールを守り、目的意識を持って学習活動に取り組んでいる。	○生徒観察による学習のつまづきの把握や協働的な学びによる自己有用感の高揚を図る。 ○生徒の学習活動における課題を職員会議等で情報共有し、組織的な生徒支援を行う。	B	B	○生徒調査では少人数授業への満足を示す数値が特に高い。今後も生徒理解に基づく授業を充実させたい。 ○授業規律に関する指導について、教職員・生徒・保護者ともは概ね80%以上が好意的な数値を示している。	A	A	○少人数授業への満足度の高さは、生徒観察に基づく、きめ細やかな授業に対する評価と考えられる。授業規律の確保も含め、学習意欲を喚起し続ける指導が継続できるよう、職員の共通理解を深め、授業改善に取り組みたい。
		○70%以上の生徒が何らかの資格取得に取り組んでいる。	○資格取得の効能について啓発的指導を計画的に行う。	B	B	○資格取得に関する指導も引き続き、啓発的指導の充実に努めたい。	B	B	○資格取得率の向上に向けた、学習方法の改善についても指導を充実させたい。
	3　生徒は確かな学力を身に付けていますか。	○思考力・判断力・表現力を身に付けるための指導に70%以上の生徒が満足している。	○グループワークや発表等の機会を通じ、思考力等の学力を育む機会を充実させる。	B	B	○感染症予防に留意しながら、グループワーク等を通じた発表の機会を増やし、表現力などの定着を図りたい。	B	A	○思考力等に関する指導への満足度は良好な数値を示している。進路決定に役立てられるよう、指導の充実を図る。
		○各学期の定期考査の結果、成績不振者が10%以下である。	○成績不振者に対する補充的指導を実施し、改善を図る。	B		○分散登校時の学習の定着状況について経過を観察していく必要がある。	B	B	○目標値は達成したが、個に応じた指導の充実に今後とも努めたい。
Ⅲ　生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4　組織的・継続的な指導を行っていますか。	○職員会議や学年会議等で、生徒に関する情報交換を月に３回以上実施する。	○個に応じた指導の充実ができるよう、職員の情報共有を進め、組織的な対応に役立てる。	A	A	○定例で学年会を行い、各係会議や職員会議等で詳細な情報共有に努め、組織的対応を心がける。	A	A	○生徒に関する情報交換は適宜行われている。引き続き、組織的対応ができるよう、情報共有の時間を確保に努める。
		○教育相談体制が十分であり、80%以上の生徒が職員を信頼して相談できると感じている。	○生徒に寄り添う指導を心がけ、職員とｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰが連携し、相談しやすい環境を作る。	B	B	○生徒が相談しやすい環境作りを心がけ、職員とｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰが連携し、適切な対応を図る。	B	A	○ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰの来校日や保護者相談も可能であることの周知を徹底し、相談環境やサポート体制の充実に努めたい。
	5　学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	○いじめについて、学校は解決に向けて取り組んでくれると認識している生徒が80%以上である。	○いじめ防止やSNSに関するLHR等を通じ、学校全体でいじめを許さない雰囲気をつくる。	B	B	○LHR等を活用し、ICTﾘﾃﾗｼｰの醸成も含めた啓発指導に取り組む。ﾄﾗﾌﾞﾙの早期発見・早期指導を心がける。	A	A	○SNS利用ﾙｰﾙ策定やいじめ防止標語作成など、生徒主体のいじめ防止活動に取り組み、ICTﾘﾃﾗｼｰ向上に努めたい。
		○いじめの発生防止に努め、いじめが発生した場合は適切な指導を行い、解消率が100%である。	○いじめに関する調査を定期的に実施し、組織的に情報共有を図る。	B	B	○いじめ対策委員会を定例で行い、いじめ事案の積極的な認知とその解消に向けて組織的に取り組む。	A	A	○いじめ認知件数の増加は早期発見に努めた結果でもある。法令に従い組織的に対応し、適切かつ迅速に対処したい。
	6　生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	○１日の遅刻者数及び欠席者数がそれぞれ平均して６人以下である。	○遅刻や欠席、保健室利用の多い生徒に対し、保護者への情報提供を行い、改善を促す。	B	B	○遅刻防止指導を通じ、生徒の情報共有化を進める。家庭と連携し、生活習慣の改善指導に取り組む。	B	B	○遅刻防止指導では、感染症への注意喚起等、啓発的指導にも努めた。今後も保護者と連携し、組織的に対応したい。
		○農業クラブの研究部や部活動に60%以上の生徒が所属し、健康的な学校生活を過ごしている。	○各活動の意義や役割の側面から加入を促し、充実した指導を行う。	B	A	○60%の加入率は達成できたが、部活動の活性化のため、今後も連携して加入を促す指導を継続する。	B	A	○部活動の活躍や農業クラブの研究成果を校内外に周知する体制を整備し、より一層の活性化を図りたい。
Ⅳ　生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7　計画的な指導を行っていますか。	○進路ガイダンスの実施内容に75%以上の生徒が満足している。	○学年と連携を図り３年間を見据えた計画的な指導を行う。	B	B	○各学年で実施する進路学習やキャリア教育では、充実した内容となるように事前・事後学習をしっかり行う。	B	A	○各学年とも最小限の進路ガイダンスしか実施することができなかった。学年団と協力し、時間の確保と内容の改善に取り組みたい。
		○進路実現のための二者面談等に70%以上の生徒が満足している。	○二者面談等が充実できるように進路関係資料を提供する。	B	A	○二者面談前後に生徒が進路相談や調べ学習ができるよう、資料整理を進める。	B	A	○進路閲覧室のレファレンス機能の充実と、進路指導部からの情報発信をする。
	8　生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	○「自己の生き方」「将来の職業」等について70%以上の生徒が真剣に考えている。	○進路指導部だけでなく各教科や特別活動等でも自己の生き方や進路について指導する。	B	A	○社会人講師の活用や、上級学校見学等を計画的に取り入れ、「自己の生き方」「将来の職業」を考える時間を設ける。	A	A	○各科の授業やLHR等で社会人講師や上級学校との連携授業等で「自己の生き方」「将来の職業」などにについて考える機会がもてた。
		○１年次に実施する就業体験学習が進路選択の参考となる生徒が70%以上である。	○体験学習後も　継続して職業観や勤労観が身に付くように指導していく。	C	C	○１・２年次はコロナ禍で就業体験学習を中止したため、職業観や勤労観に関する代替の学習機会を設ける。	B	A	○就業体験学習に代替として、事業所の協力を得て「職業講話」を実施することができた。今後も積極的に生徒の職業観を高めたい。
Ⅴ　開かれた学校づくりに努めていますか。	9　家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	○webページを月5回以上更新し、本校の教育活動の周知を図る。	○各分掌による情報提供を募る他、他校の動向を参考にする。	C	B	○各分掌・行事ごとに担当者を定め、情報発信体制の強化を図る。	A	A	○webページの体制整備も含め、記事の更新に努めた。今後も充実を図りたい。
		○本校の情報発信に保護者や地域社会の満足度が80%以上である。	○動画配信等、「見る側」に立った情報提供の改善を図る。	C	C	○「見る側」の視点に立ったWebページの構成等、情報提供の改善に取り組む。	B	B	○webページについて、他校の掲載例も参考に充実に努めたい。
Ⅵ　教育のデジタル化に努めていますか。	10　ICTを活用した指導を行っていますか。	○ICTを活用した授業や、学習支援ソフトを用いた個別最適な学びに対して満足と答える生徒が70%以上である。	○ＩＣＴの特性や学習支援ソフトの活用について指導者の理解を深めるための校内研修を重要事項として位置づける。	B	B	○9月の分散登校を契機にオンライン学習に全職員が取り組むことができたが、学習の定着等について検証に取り組み、授業改善につなげたい。	B	B	○ICTの活用に関する満足度や期待値は生徒・保護者とも高い。ICTの活用事例等を共有する研修の機会を確保し、更なる授業改善に努めたい。
		○生徒は週10回以上、学習用端末による授業や指導を受けている。	○学習用端末の効果的な活用について、職員研修を行う。	B	B	○分掌担当者を講師とする校内研修を今後も実施する（9月までに3回実施）	B	B	○職員研修は適宜実施している。引き続き、指導方法の改善に取り組む。
	11　ICTを活用した業務改善を行っていますか。	○ICTを活用した生徒・保護者向けのアンケートを年10回以上、実施している。	○Googleformsによる授業・学校評価に加え、各分掌のアンケートもICT化を進める。	A	A	○Googleformsによる授業・学校評価に加え、健康観察や各種アンケートによる業務改善を今後も進める。	B	A	○アンケートのICT化により業務効率は改善したが、回収率に課題が見られるため、引き続き、改善に取り組みたい。
		○ICTを活用し、ペーパーレス化を目指した職員研修や会議を年2回以上、行っている。	○会議資料や研修の使用資料を学習用端末で配信することでペーパーレス化を図る。	B		○職員会議や校内研修等でＩＣＴを活用する場面を積極的に増やす。	B		○特に研修の場面でペーパーレス化が進んだ。今後も適宜、ICTの活用による業務改善に取り組む。